

## 1 調査の目的

本県の復興を加速させるため、既存の井戸所有者の協力を得て、地下水の有効活用につながるよう、次の3つの観点から地下水資源の現状を把握し、結果を公表する。

- (1) 地下水への放射性物質の影響等を調査し、生活用水としての地下水の安全性を確認する。
- (2) 復興推進のため、生活・産業をはじめ地下水の利用が期待されていることから、地下水の質と量を確認する。
- (3) 東日本大震災時、長期間の断水となったことを踏まえ、今後の大規模災害等の発生に備え、既存井戸の地下水が災害時に利用可能か確認する。

※ 本調査は平成25年度から実施しているもので、今回は4回目となる調査。  
**平成27年度の調査結果**概要は下記のとおり。

- **放射性物質検査**：調査した464箇所の井戸全てでセシウムは不検出。
- 災害時の地下水提供に同意があった井戸は357箇所。

## 2 調査の概要 (調査期間 H28.9~H29.3)

平成28年度福島再生加速化交付金  
(地下水資源対策事業)  
事業費 38,741千円

- (1) 調査対象：中通り、浜通りの41市町村
- (2) 調査方法：

- 現地調査箇所：527箇所 (H27：500箇所)  
(公共井戸：139箇所 個人井戸：303箇所 企業井戸：85箇所)  
※既存井戸約2,000箇所の資料を基に、地形的観点・井戸水利用の目的別重要度・調査箇所の粗密を考慮して抽出した。

<調査項目>

### 【放射性物質の影響】

- (1) 503箇所で原水の放射性物質検査を実施。

<調査結果>

### 【放射性物質の影響】

- (1) **503箇所全てで放射性セシウムは、不検出。(4年続けて不検出)**

※ 残り24箇所は検査できず

### 【資源量】

- (1) 現地調査やアンケート調査において井戸の水量・構造調査を実施。
- (2) 地下水利用ポテンシャル図と集水面積図から地下水浸透・貯水量を推定。
- (3) 開発する地点の周辺地下水の水質を予測する際に参考資料とするため、採水可能な井戸(503箇所)の原水について簡易な水質調査※1を実施。

※1：PH(水素イオン濃度)、フッ素、鉄、マンガ  
ン、硝酸態窒素等8種類について調査。

### 【資源量】

- (1) 概ね、十分な水量が確保されている。なお、一部時期によっては水量の増減がみられる。
- (2) 阿武隈高地における山間盆地中央の河川合流部周辺に良好な帯水層が期待される。
- (3) 概ね、良好な水質が期待できる。  
※実際の地下水開発の際には、地域の特徴を踏まえ事前に詳細調査を実施することを推奨します。

### 【災害時利用】

- (1) 今年度追加した289箇所の井戸のうち243箇所に対して、災害時等の地下水提供に同意が得られるかアンケート調査を実施。

### 【災害時利用】

- (1) 災害時の地下水提供に同意があった井戸は162箇所。  
(昨年度までの調査を含めると計519箇所同意)

## 3 調査成果の活用

- (1) 地下水台帳  
調査した井戸527箇所の地下水の水量・場所・水質・所有者・災害時の活用等の項目の内容を台帳として整備。
- (2) 放射性物質検査実施井戸位置図  
検査を実施した井戸、503箇所を視覚的にわかりやすく提供できるよう位置図を作成。
- (3) 地下水利用ポテンシャル図  
地下水浸透・貯留量の推定結果に解説を加え、ポテンシャル図を補足。

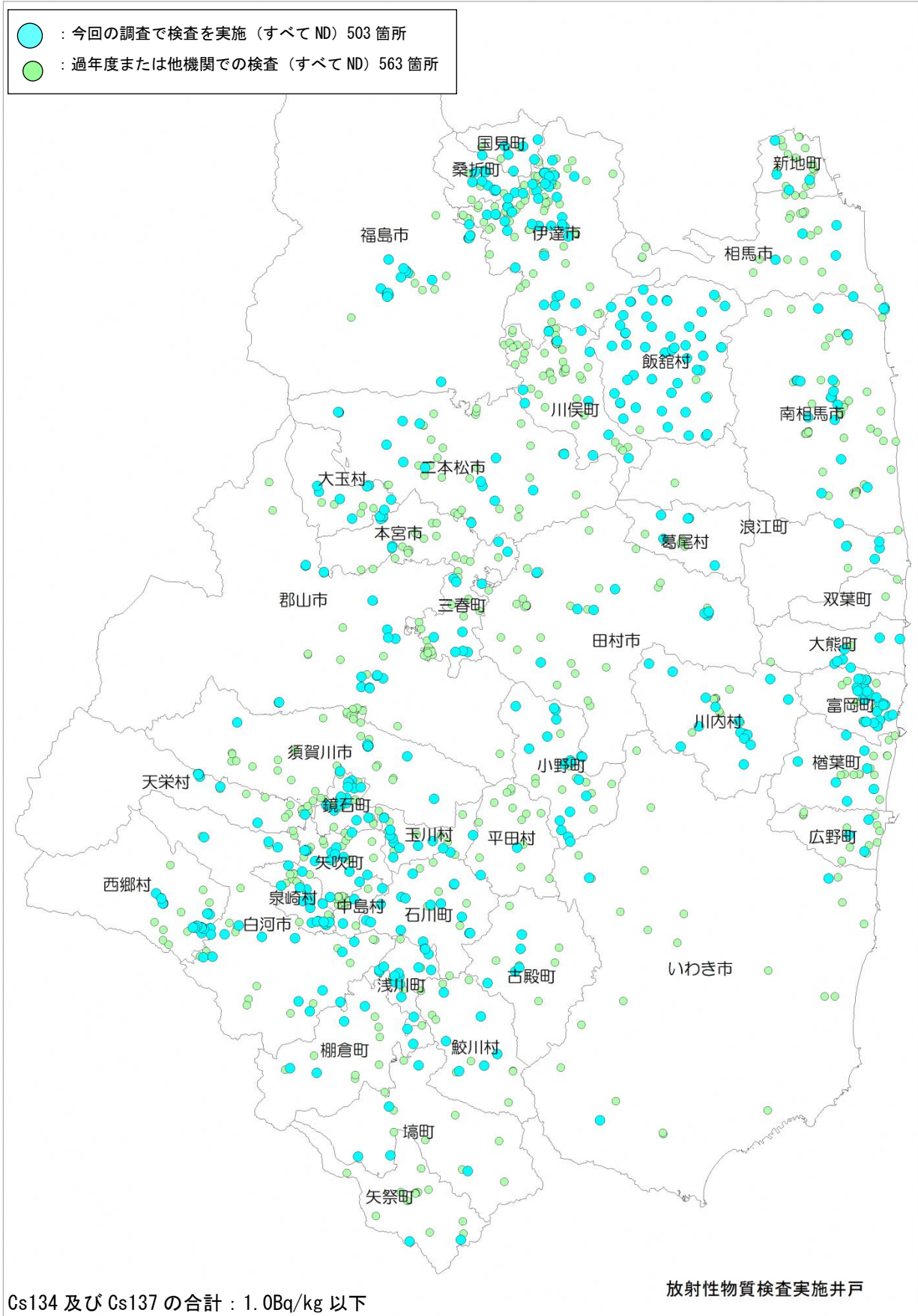
- 市町村、企業、関係機関等へ情報提供し、**風評の払拭や帰還の判断材料**に役立てていく。  
また調査結果の概要等は県ホームページで周知する。
- 調査結果の提供により、水量の乏しい地域での地下水涵養の推進や過剰揚水の未然防止、豊かな地域での企業立地等、各地域の地下水資源量の応じた有効活用を推進する。
- 市町村が行う「災害時井戸協力制度」の取り組みに、調査結果(地下水台帳)を役立てる。

## 4 平成29年度の取組

現地調査箇所数の一層の充実を検討し、引き続き調査を実施する予定。



# 放射性物質検査実施井戸位置図



H28地下水資源調査 集計表							
	市町村	現地調査 箇所数	放射性物質検査数		災害時提供 可能井戸数 合計値	水素イオン濃度等が水質基準を超えた箇所 箇所数	
			今回測定	測定不可		項目	項目
1	福島市	26	24	2	28	7	①ワゴン ②～⑤鉄化、ワゴン ④～⑤ワゴン ⑥～⑦鉄化、ワゴン
2	郡山市	15	15	0	17	11	①～③、⑤、⑥～⑧鉄化、ワゴン ④～⑤ワゴン ⑥～⑦、⑧ワゴン
3	いわき市	4	3	1	20	1	①PH
4	白河市	18	17	1	16	2	①PH ②硝酸態窒素
5	須賀川市	8	8	0	5	4	①、④PH、フホ素 ③～④フホ素
6	相馬市	8	8	0	16	2	①ワゴン ②ワゴン
7	二本松市	17	14	3	9	2	①ワゴン ②硝酸態窒素
8	田村市	12	12	0	18	2	①～②ワゴン
9	南相馬市	18	17	1	19	6	①、⑥ワゴン ②～⑤鉄化、ワゴン
10	伊達市	41	40	1	43	8	①、⑦～⑧鉄化、ワゴン ②ワゴン ③、⑤硝酸態窒素 ④フホ素 ⑥鉄化
11	本宮市	10	10	0	7	4	①ワゴン ②フホ素 ③鉄化、ワゴン ④フホ素、鉄化、ワゴン
12	桑折町	11	11	0	12	4	①、④鉄化、ワゴン ②硝酸態窒素 ③ワゴン
13	国見町	6	6	0	10	0	
14	川俣町	8	8	0	7	0	
15	大玉村	8	8	0	9	2	①フホ素、ワゴン ②硝酸態窒素
16	鏡石町	18	18	0	13	5	①PH、硝酸態窒素 ②～③硝酸態窒素 ④～⑤ワゴン
17	天栄村	7	6	1	9	0	
18	西郷村	23	23	0	1	1	①ワゴン
19	泉崎村	16	16	0	16	3	①、③硝酸態窒素 ②PH、フホ素 ④硝酸態窒素
20	中島村	3	3	0	2	2	①～②硝酸態窒素
21	矢吹町	19	16	3	18	4	①鉄化、ワゴン ②～④ワゴン
22	棚倉町	5	5	0	10	0	
23	矢祭町	2	2	0	3	1	①PH
24	塙町	5	5	0	8	1	①PH
25	鮫川村	7	6	1	5	0	
26	石川町	16	16	0	14	5	①～②硝酸態窒素 ③～⑤ワゴン
27	玉川村	15	13	2	14	2	①～③ワゴン
28	平田村	3	3	0	6	0	
29	浅川町	16	16	0	9	5	①、④鉄化、ワゴン ②～③、⑤ワゴン
30	古殿町	5	5	0	9	0	
31	三春町	10	10	0	13	0	
32	小野町	16	16	0	11	1	①ワゴン
33	広野町	3	3	0	9	1	①PH
34	楡葉町	7	7	0	15	3	①、③ワゴン ②PH、フホ素
35	富岡町	32	27	5	18	3	①ワゴン ②硝酸態窒素 ③硝酸態窒素
36	川内村	15	15	0	18	2	①鉄化 ②フホ素
37	大熊町	8	6	2	7	1	①ワゴン
38	双葉町	0	0	0	1	0	
39	浪江町	5	5	0	3	1	①硝酸態窒素
40	葛尾村	6	5	1	4	0	
41	新地町	4	4	0	12	0	
42	飯館村	51	51	0	35	4	
	合計	527	503	24	519	100	①ワゴン ②硝酸態窒素 ③～④フホ素

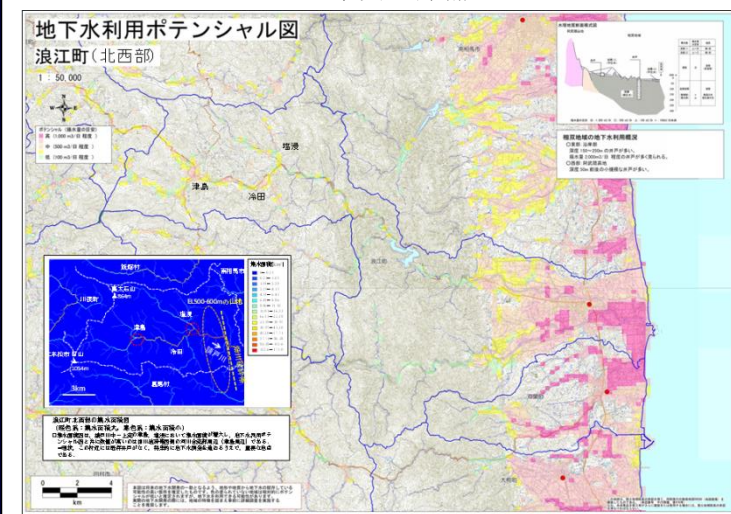
・全て ND (不検出: 検出下限値 1.0Bq/kg 未満)

※災害時協力井戸数は H25 調査、H26 調査、H27 調査、H28 調査の合計値  
 ※測定不可は構造上の問題や所有者の検査辞退による

【参考】PR 用チラシ

H26 年度作成

【参考】地下水利用ポテンシャル図  
 (浪江町等の例) H27 年度一部補足



【参考】災害時協力井戸 (伊達市の例)